

〈解答〉

- ① 1 (1) ウ (2) 勘合 (3) 琉球
2 (1) 株仲間 (2) ウ

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 (1) 足利義満の保護を受け、観阿弥と世阿弥によって大成された能は、平安時代から民衆の間で行われていた田楽・猿楽などの芸能をもとにしている。アは江戸時代の元禄文化、イは江戸時代の化政文化、エは安土桃山時代の桃山文化である。
- (2) 足利義満は、明の求めに応じて倭寇を禁じる一方、正式な貿易船に、明から与えられた勘合という証明書を持たせ、朝貢の形の日明貿易〔勘合貿易〕を始めた。
- (3) 琉球では、14世紀になると北山、中山、南山の三つの勢力にまとまり、それぞれが明と朝貢貿易を始めた。15世紀初めに、中山の王になった尚氏は、北山、南山の勢力を滅ぼして沖縄島を統一し、首里を都とする琉球王国を建てた。
- 2 (1) 田沼意次は、商品の流通を江戸へと集中させ、商工業者たちの株仲間の営業権を認めて税を納めさせた。水野忠邦は、物価の上昇は株仲間が商品の流通を独占しているためと考え、株仲間を解散させた。
- (2) 銅矛や銅鐸などの青銅器は、豊作を神に祈る祭りの道具として使われた。馬借は、馬を使って物を運んだ業者で、鎌倉時代の終わりごろに現れた。問は、鎌倉時代、港などで荘園の年貢の保管や輸送にあたった者で、室町時代には、荘園領主から独立して専門の運送業者や倉庫業者となった。千歯こきは、脱穀の農具である。